

研究・調査報告書

報告書番号	担当
257	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳) Maternal periconceptional smoking and alcohol consumption and risk for select congenital anomalies. 妊娠初期の喫煙および飲酒と先天奇形との関連について	
執筆者 Grewal J, Carmichael SL, Ma C, Lammer EJ, Shaw GM.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Birth Defects Res A Clin Mol Teratol. 2008 Jul;82(7):519-26.	
キーワード 妊娠、喫煙、飲酒、先天奇形、神経管疾患、大血管転位症、口蓋裂	
要 旨 目的： 妊娠前 2 カ月と妊娠初期 2 カ月間の喫煙および飲酒と口蓋裂や神経管疾患や大血管転位症のリスクとの関連を検討する。	
方法： 1999 年から 2003 年のカリフォルニア州の出生コホートにおいて胎児と新生児を対象とした地域住民症例対照研究のデータを用いた。1335 例の症例は、口蓋裂 701 例、神経管疾患 337 例、大血管転位症 323 例から構成された。喫煙および飲酒状況は電話で 1355 名の症例の母親 (対象の 80%) と 700 名の先天性奇形のない対照群の母親 (対象の 77%) から聴取した。飲酒に関しては一週間あたりの飲酒日数と一日あたりの飲酒量を聴取した。	
結果： 5 本以下の喫煙は神経管疾患のリスク減少と関連を示した(OR0.7;95%CI0.3,1.4)。一方、多量喫煙は大血管転位症のリスク低下を示した(OR0.5;95%CI0.2,1.2)。一週間に一回未満の飲酒は神経管疾患(95%CI0.9-2.6%)や大血管転位症(95%CI1.1-3.2%)や口蓋裂(95%CI0.8-4.5%)のリスクが 1.6 から 2.1 倍上昇していた。さらに飲酒量が多い症例では神経管疾患のリスクは 2.1 倍(95%CI1.1,4.0)倍、口蓋裂は 2.6 倍(95%CI1.1,6.1)上昇していた。	
結論： 本研究において母親の飲酒は神経管疾患や口蓋裂や大血管転位症のリスク上昇と関連を認めた。一方で喫煙は神経管疾患や大血管転位症のリスクが低下していた。	